
「精巣捻転症の予後に影響する患者の

受診行動および経路の検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの診療情報を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、埼玉医科大学病院 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2012年7月1日から2025年12月31日の期間に埼玉医科大学病院小児外科を受診し、精巣捻転症と診断され、緊急手術を実施した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

精巣捻転症は精巣に血流を供給する血管が捻転することにより、精巣が血流障害に陥る緊急性の高い疾患です。治療は緊急手術により捻転を解除することが必要ですが、当院を受診される本疾患のお子さんのうち約4割が受診時には時間が経過して手遅れとなり、精巣を摘出しないとけないのが現状です。

そこで、本研究ではどのような背景や発症から受診までの経路・行動を取られている患者さんで、治療が手遅れとなり精巣を失っているかを明らかにすることによって、精巣の救済率を上げるための対策を見出すことを目的としています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2027年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2026年4月1日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

- ・捻転精巣の温存の有無、温存精巣の術後の萎縮の有無
- ・患者さんの背景（年齢、左右、基礎疾患、自宅郵便番号（自宅から当院までの距離））
- ・症状（睾丸痛、陰嚢腫大・発赤、腹痛、嘔気）
- ・発症日時
- ・当院受診のタイミング（受診日時、発症から受診までの時間）

- ・ 紹介医の有無
- ・ 救急搬送の有無
- ・ 捻転解除のタイミング（発症から捻転解除までの時間、受診からは捻転解除までの時間）
- ・ 術後通院期間

上記項目のデータは診療記録等を用います。この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学病院 小児外科において、研究責任者である鈴木 啓介が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

上記項目のデータは診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・ 埼玉医科大学病院 小児外科 鈴木 啓介（研究責任者）
- ・ 埼玉医科大学病院 小児外科 田中 裕次郎
- ・ 埼玉医科大学病院 小児外科 関 千寿花
- ・ 埼玉医科大学病院 小児外科 吉田 美奈
- ・ 埼玉医科大学病院 小児外科 泊 卓志
- ・ 埼玉医科大学病院 小児外科 中島 優太

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学病院病院長 篠塚 望

お問い合わせについて

カルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学病院 小児外科 鈴木 啓介

住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話：049-276-1654（土日祝日を除く 8：30～17：30）

メールアドレス：suzuki25@saitama-med.ac.jp

○研究課題名：精巣捻転症の予後に影響する患者の受診行動および経路の検討

○研究責任者：埼玉医科大学病院 小児外科 鈴木 啓介